

令和2年度学校自己評価システムシート (県立本庄高等学校 定時制課程)

目指す学校像	生徒一人ひとりを大切にし、社会で活躍できる生徒を育成する。
--------	-------------------------------

重点目標	1 「わかる授業」を実現する授業の工夫改善を進め、基礎学力の向上を図る。 2 家庭との連携と生徒指導の充実を図り、基本的生活習慣の確立に努める。 3 進路意識と社会で生きて働く人間性や社会性を育て、希望する進路を実現する。
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標				年 度 評 価 (月 日 現 在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成率	次年度への課題と改善策
1	学習意欲や進路希望、中学校までの学習歴や習熟度、日本語活用能力等に著しい差があるため、個に応じた「わかる授業」「きめ細かい指導」を実践し、社会で活躍できる「基礎基本」を身につけさせる必要がある。	「わかる授業」、「きめ細かい指導」の実践に取り組む。	①「わかる授業」実践に向けた授業の工夫改善のほか、数学・英語での習熟度別授業や学習サポーターによる学習支援を進める。 ②新学習指導要領改訂の実施に向けた新しい教育課程完成版を作成する。	①授業アンケート「授業の内容を理解できている」が前年比向上したか。 ②授業アンケート「授業の内容に興味を持てる」が前年比向上したか。			
		多様な生徒の実情を踏まえた学習支援策を実践する。	①日本語活用能力に課題がある生徒を対象とし、多文化共生推進員と連携した学習支援を進める。 ②学習サポーターと連携した「仮進級」者に対するきめ細かい課題指導を行い、単位認定につなげる。	①多文化共生推進員を活用し日本語活用能力に課題のある生徒への支援ができたか。 ②仮進級者の欠点の単位認定が100%となったか。			
2	家庭環境、生活状況等多様な生徒が学んでいる。家庭との連携を密にしながら、生徒理解と保護者の協力を得て、基本的生活習慣や身だしなみ、言葉遣い、コミュニケーション能力などに課題のある生徒も多い。 生徒個々の課題に向き合うとともに、社会人としての必要なスキル身につけさせ、卒業後の具体的な目標が描けるよう指導・支援していく必要がある。	県の支援事業を「社会人育成講座」として、キャリア教育を充実させる。	①深谷若者サポートステーションと連携したソーシャルスキルトレーニングや企業訪問を兼ねた遠足(社会体験活動)、心理テストとフィードバックの実施。	①外部機関と連携した段階的、効果的なキャリア教育を実施できたか。			
		家庭と連携協力した生徒指導、基本的生活習慣の確立に取り組む。	①登校時の生徒玄関での声掛け指導、駐車場の見回り指導、個人面談等により生徒理解とコミュニケーションを深める。 ②家庭と連携し、基本的生活習慣の確立と、授業への出席率を向上させる。 ③カウンセラーを活用した教育相談を充実させ生徒への個別指導を進める。	①教員による登校時の出迎えと挨拶指導ができたか。 ②欠課時数オーバーによる留年や退学をなくせたか。 ③カウンセラーを活用した教育相談や講演会等を実施できたか。			
3	自己肯定感が低く、学習意欲に課題があったり、進路意識が低かったりする生徒が多い実情を踏まえ、進路意識の向上と、人間性・社会性の育成に取り組む必要がある。 定時制の取組を保護者や地域社会に積極的に発信し、理解を深める必要がある。	進路意識と適切な進路選択にむけた支援に取り組む。	①4年生に対する就職支援アドバイザーを活用した個別支援の実施。 ②就職支援アドバイザーや若者サポートステーション等と連携し、1～3年生に対して、適切な進路選択と進路意識の向上に向けた支援(講演会等を含む)を実施。	①4年生全生徒の卒業と進路が決定できたか。 ②就職支援アドバイザーを活用した進路意識向上策に取り組めたか。			
		定時制の取組をHPで紹介し、保護者や地域社会との理解と連携を深める。	①定時制HPに学校の取組や生徒の様子を積極的に掲載し、発信する。 ②授業公開や定時制の取組をまとめたリーフレット、定時制便り等の作成等に取り組む、保護者に情報発信する。	①定時制HPの更新回数が前年比増加したか。 ②保護者向けの授業公開を実施したか。また、学校だより等の作成・配布ができたか。			

学校関係者評価
実施日平成 年 月 日
学校関係者からの意見・要望・評価等